

のんた

19

山口の土地改良

vol.19

Winter 2017

21世紀の食料・環境・ふるさとを考えよう!

特別特集

やまぐちの「農の偉業」探訪②

宇部市御撫育用水

萩藩撫育方のロマンが
抱え育てた開作地の上で

入選おめでとう!!

「ふるさとの田んぼと水」
子ども絵画展2016

入選作品のご紹介

第18回食料・環境・ふるさと

写真コンテスト

特別賞

土地改良法が
一部改正されました

特別賞

日本中で高まる
土地改良への期待!

萩藩撫育方のロマンが 抱え育てた開作地の上で

取材・文：石井里津子



五田ヶ瀬井堰。1792年に築造後、1821(文政4)年に改修された。その後、昭和2年に頭首工がコンクリート化。1966(昭和41)年に頭首工電動化。2000(平成12)年には頭首工が大改修された

そこは住宅街だった。目の前をトラックが、乗用車がビュンビュン横切っていく。秋吉台周辺から周防灘へ流れる厚東川の右岸(西側)、宇部市の厚南平野を潤す御撫育用水を今日は訪ねるはずなのだが……。田んぼはいったいどこに? 新たにかけ直したという水路橋を目の前にしながら思わず尋ねた。「農業振興地域ではないので、宅地化が進んでいるんですよ。田んぼはこの先ありません」
宇部市御撫育土地改良区理事長、浅上賢治さんが河口の方を指さした。大型レストラン、総合病院、スーパー、建ち並ぶ家々……。そのあいだを流れる御撫育用水も、排水河川・中川も街の風景に溶け込んでいた。
関ヶ原の戦い後、財政難対策として開作(干拓)を藩内各地で進めていった萩藩。厚東川河口も例外ではなかった。江戸時代後期、厚東川右岸で順次、開作が進められた。それに併せて造られた御撫育用水。約480ヘクタールの開作地に水を届けてきた。



御撫育用水ルート。左方向が河口側。山口県土地改良事業団体連合会作成

萩藩「撫育方」の事業として

御撫育用水は、萩藩の撫育方によって造られた。撫育方とは、藩の財政難を打破するため創設された、知恵と技術を併せ持つ部署だったという。ちなみに「撫育」とは、武士や農民の困窮救済を意味する。辞書には「かわいがり大事に育てること」とある。

江戸時代の後半、萩藩は特別な部署「撫育方」を立ち上げた。表向きは緊急時の財源確保だったというが、実は、藩主の私的資金だったとか。7代目藩主、毛利重就が、就任12年後の1763年に、宝暦検地で出た増石分を資金として創設した。そして幕末には、この撫育方の貯蔵金が倒幕資金となっていた。撫育方は約100年のあいだに数々の仕事を手がけている。開作(干拓)、水

路開削、塩田、製塩、販売。蠟燭産業、さらには、製塩に必要な石炭採掘まで。その撫育方が幕末まで抱え育てた土地。それが厚南平野だった。
現在も「御撫育」の名を残しているのはここ、「御撫育用水」のみなのだそうだ。「御」をつけ、「撫育方」への敬意や感謝の念を込めた命名だという。浅上理事長は言う。
「恩を感じてつけたんでしょね」



御撫育用水筋明細図絵[1822(文政5)年]。幅40.7センチメートル、長さ28メートル。五田ヶ瀬井堰から水路のほか溝筋の田畑や木々も描かれている。五田ヶ瀬井堰を石垣作りに改修した翌年に作成。2016(平成28)年、宇部市有形文化財に指定。
宇部市御撫育土地改良区所有
管理者:宇部市、所在地:宇部市学びの森くすのき
(写真提供:宇部市学びの森くすのき)

現代を支える御撫育用水と排水河川・中川

厚南平野の開作に撫育方がかかわりはじめるのは、1782年完成の「上開作」より後である。続いて1787年に開作された「中野開作」は、完成後、撫育方に売却されている。ここから撫育方の関与がはじまっていく。中野開作の水田は83町歩。この広大な面積をため池では潤すことができず、撫育方の資金や技術を投入した用水路掘削が必須だった。



御撫育用水。山陽本線を走る列車と用水路の風景も印象的。幹線用水路は最も深い取水口のところで深さ3メートル。最も幅が広いところで3.4メートル



辰の口隧道。もともと半島であった岩盤をくり抜いた。長さ150メートル。高さ1.9メートル、幅3.7メートルもある立派な隧道だ。昭和隧道ができるまでの、1821(文政4)年~1933(昭和8)年の112年間使われた

1792年、御撫育用水が通水。さらに1817年には、御撫育方直営による「妻崎開作」213町歩が完成。そのため、御撫育用水は延長され、1845年、総距離約10キロメートルになった。

途中、岩盤をくり抜いた巨大な辰の口隧道を通すなど、その技術力は目を見張るものがある。それだけではない。厚東川の水面は、右岸の干拓地よりも高い。決壊しないタフな堤防も必要だった。

そしてもう一つ、開作が進むなか、排水河川・中川も造成された。こちらは全長約5キロメートル。もともとの厚東川の本流跡の水脈筋に掘られたものだ。この排水河川がなければ、現代においても厚南平野を暮らしの場として維持することはできない。

「ここは、厚東川よりも低い土地です。中川の自然排水だけでは追い付かないんです。厚東川河口にある中川排水機場では最近、ポンプを2台から3台に増やし



開作地の重要な排水河川、中川

ました」
そう浅上理事長が話す。
住宅街の安心を支えているのは、こうした排水機能だ。つい、当たり前風景として忘れられがちだが、生活インフラとしての土地改良施設の役割は大きい。

開作地の下に眠っていた石炭

厚東川右岸の開作は、撫育方直轄で幕末まで続いた。近世の終わり、実は撫育方がこの地に目を付けたのは、どうも米だけではなかったようだ。
「ここは、地下に炭鉱があったんです。海底炭田です。ですから掘った坑道の空間が今もそのまま地下にあって。最近でも小規模ですが、水田がほこつと落ちたり……」

石炭の採掘は、江戸時代半ばにはすでに行われていた。石炭は、藩の主要産物の一つ、塩の精製に欠かせない燃料だった。厚南平野には、米、塩、石炭という複数の宝があったことがわかる。

とくに「妻崎開作」は、石炭採掘の目的もあり、撫育方が最初から手がけている。つまり、撫育方は地下に眠る石炭にも目を付けていたのだ。干拓すれば、海底の石炭採掘も当時の技術で可能になった。

この地の宝は水田だけではなかった。ゆえに、さまざまな業種の人々が集まってきた。それがここを商工業エリアへとしても発展させていく。

そのすべての礎となったのが、御撫育用水であり、ここに目を付け、この地を育てた撫育方の裁量だった。

「石炭があったことは、最近では知られていないですね。他の地域の炭鉱のように、はた山がないですから。こうした残土は、この先の工業地帯の埋め立てに使ってあるんですよ」

浅上理事長が教えてくれる。近代以降

も撫育方がつくった流れが、宇部市を展覧させてきた。人々は米づくりをしなから、農閑期に石炭採掘を手がけたという。石炭産業が発展していくと、石炭産業に就き、小作で田んぼをする新たな参入者も出てきた。だが今、この一帯で、石炭採掘は行われていない。

現在、宇部市御撫育土地改良区の水田面積は200ヘクタール弱。80歳代、90歳代も現役だ。
「わしが死んだら誰もやるもんがおらん」
そういう人も増えた。
「ロボット投入を待っています」

浅上理事長に後継者問題を問うたとき、こんな答えが返ってきた。とはいえ今日のこの一瞬も、農業関係者による、御撫育用水をはじめ、排水河川・中川の適切な管理運営によって地域全体が守られている。

厚南平野に今日も新しい朝が来る。農家の田や水路の見回りがはじまる。御撫育用水の横を山陽本線が走り、トラックが荷を運ぶ。そして、学校に向かう子どもたちの元気な声。

撫育方のロマンがこの風景をつくり、今も見えないところで地域を潤し続けている。

主な参考文献

『宇部市史 通史篇』

1966年 宇部市史編纂委員会刊行

『厚南』厚南郷土史研究会編・発行

宇部市御撫育土地改良区作成資料



壇安神社。壇安とは土地を支配する神さま。中野開作の着工にあたり、地鎮のため建立。まず神社を建て、開作がスタートした。神社の裏は、その前の開作地・上開作との境目



小島橋門から厚南平野を望む。2006(平成18)年(宇部小野田湾岸道路建設事務所撮影写真より)



1959(昭和34)年小島橋門大改造 上空より撮影写真より(上写真とも宇部市御撫育土地改良区所有)



浅上賢治理事長。五田ヶ瀬井堰にあった昭和改修記念碑前で

新刊案内!!

石井里津子さんの新刊が出ました。山口県萩市見島にある水田から日本人と稲作の深い関わりを辿るノンフィクションです。
『千年の田んぼ 国境の島に、古代の謎を追いかけて』(旬報社)

やまぐちの「農の偉業」探訪② 宇部市御撫育用水

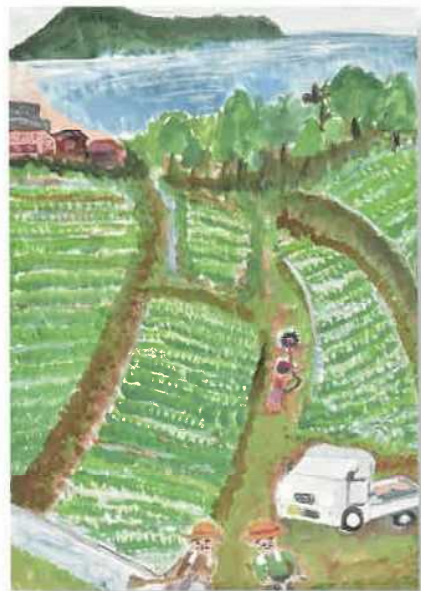
＼ Congratulations!! /
入選おめでとう!!

「ふるさとの田んぼと水」 子ども絵画展2016

主催:全国水土里ネット・都道府県水土里ネット

日 本の農業・農村は、人が生きていくために必要な食料を生産する場であるとともに、自然環境を守り多様な生き物の命を育む場でもあります。さらには洪水を防止したり、大気や水質の浄化をするなど多面的な機能を持ち、人が安心してくらすために欠くことのできない多くの役割をも果たしています。また、農村の豊かな自然や美しい風景、歴史的な遺産や伝統などはかけがえのない国民の財産でもあります。

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展は、子どもたちの作品を通して、田んぼや農村、自然環境への人々の関心呼び覚まし、理解を持ってもらうために始められたものです。今回は「未就学児から小学校6年生までの力のこもった作品が全国から7、879点の応募があり、山口県からは2名の方が入選しました。おめでとうございます。その作品をご紹介します。」



入選
「木与の棚田
～夏の風景～」

阿武町立阿武小学校5年(当時)
まつもとあやり
松本彩里さん



水土里ネット山口 会長賞
「自然がいっぱい、
私たちの通学路」

下関市立一の宮小学校6年(当時)
もりやまみく
森山美紅さん

萩藩撫育方のロマンが
抱え育てた開作地の上で



御撫育土地改良区総代でもある82歳の農家が、秋の田起こしをしていた。石灰をすき込んでいると快活に教えてくれた



山口新聞社賞

『寒ブリの出荷』 長門市三隅野波瀬
大井幸枝 (萩市)

年末の気ぜわしい中、寒ブリの出荷の光景です。縦構図で高さとお行きを強調しました。網がたわむ程の脂の乗り切った寒ブリは実に美味そうでした。



水土里ネット山口会長賞

『ため池の魚とり』 下関市下保木・河内ヶ浴ため池
重本雅生 (下関市)

今ではあまり見られなくなった「ウダ」という独特な漁具を使って行われます。池底に溜まった泥を流す目的もあり、とった魚は山間の地においては貴重なタンパク源でもありました。米の取り入れの終わった10月末に毎年行われています。



中国新聞防長本社賞

『水車』 岩国市周東町
池岡一行 (熊毛郡平生町)

たまたま通りかかって撮影しました。



山口県知事賞

『八十八夜の頃』 宇部市小野地区
井上 守 (防府市)

青々とした茶畑で新茶の摘みとりに活躍する茶摘み機の位置と画角を考えながら撮らせて頂きました。



山口県地球人会議会長賞

『農業体験』 周南市中須
上田和夫 (柳井市)

周南市中須の棚田です。これも例外ではなく、高齢化と担い手不足です。この写真は、農業体験です。こうした取り組みで田畑を守ることが出来ます。いつまでも残したい棚田です。

第18回
食料・環境「水・土・人・暮らし」
ふるさと写真コンテスト

一般の部

入賞作品のご紹介



山口県内の農山漁村の良さを再発見していただくこと「水・土・人・暮らし」をテーマに平成11年度から始まった「食料・環境・ふるさと写真コンテスト」18回目を迎える今年度は、9月から12月にかけて募集を行ない、県下各地から農山漁村の風景や生き物、人々の営み、伝統文化、などを撮った515点の作品の応募がありました。すばらしい自然や文化が数多く残る農山漁村は、まさに私たちの、そして生き物たちの心通うかけがえのないやすらぎの地、次世代に残していきたい宝です。入賞作品23点をご紹介します。

食料・環境「水・土・人・くらし」 ふるさと写真コンテスト

入賞作品のご紹介



山口県地球人会議会長賞 『元気がもらえるコスモス畑』

下関市豊浦町・コスモスまつりにて
末徳悠明斗 (山口市・小学1年)

豊浦町のコスモスはいつもきれいです。見て
いると僕は元気になります。



児童・生徒の部



入選



『桜満開の広域農道』 柳井市 米田知世 (熊毛郡平生町・小学4年)

柳井市で最近通れるようになった広域農道で撮りました。
満開の桜と農道のレイアウトがとてもきれいでした。



『棚田の実り』 阿武町 山根 柚 (山口市・小学4年)

このような美しい棚田がいつまでも残って欲しいです。



優秀賞

『妹と雪かき』

美祿市美東町鎌木
長井仁志 (美祿市・小学5年)

12月17日はすごく雪が積もって一面真っ
白になりました。家の前も雪が積もって
いたので、お客さんが来てもしゃまになら
ないように妹と雪かきをしました。写真を見
ると雪は自然の力だなあと思ったからです。

優秀賞

『田んぼの中の牛』

美祿市
北村優希 (山口市・中学1年)

田んぼに牛がいたのでびっくりしました。



優秀賞

『秋の訪れ』

山口市宮野上
藤森俊多 (山口市・中学2年)

稲刈りの始まる頃、山口線沿線には彼岸花
も少し開花し、秋の訪れを感じます。揺れる
稲の向こうを煙を棚引かせ、SL列車が通
過していきました。

主催 / 食料・環境・ふるさとを考える山口県地球人会議

山口県・水士里ネット山口

後援 / 山口新聞社・中国新聞防長本社



『もうすぐ田植』 周南市小畑 吉光佑二 (周南市)

田植の準備でしょう。三人三様の姿を棚田の畦波を入れ少しア
ップで撮ってみました。平地の田圃に比べ草刈を始め格段の手間が
掛かります。今年も豊作を祈るばかりです。



『パパいっばいとれたね』 下関市豊北町粟野川 河野サエ子 (下関市)

パパの採った大漁のアオノリにはじめてふれた子供たち。家族のほほ
えましい情景に心暖まりました。



『田んぼアート』 熊毛郡田布施町 北辻勝己 (玖珂郡和木町)

ドライブ途中、偶然発見し思わず撮影しました。後に調べてみると、
この地区では例年、古代米を使用した田んぼアートを作られてい
るのでたしか、地元の小學生達も古代米作りに取り組まれている
ようで、農の伝承が図られているようでした。



『シラス漁に勤しむ』 萩市松本川 広田和夫 (宇部市)

昔ながらの四つ手網漁を俯瞰からリリースしました。PLフィルターで海
面のトーンを落とし、モチーフを浮かび上げさせました。この地味で且精
な手作業が美味しいシラスをつくりあげる原点だと思ふと感心します。



『争奪戦』 下関市安岡 谷野 隆 (山陽小野田市)

安岡の泥んこフェスティバルで行われた泥んこレースです。女
の子同士の激しい戦い。顔は笑っていますが、片手で相手をブロックし
たり、見ごたえのあるレースでした。



『整然』 周南市戸田 辰川泰朗 (周南市)

周南市戸田、道の駅ソレーネ周南のすぐ隣の田んぼで稲刈り後
の整然とした光景を撮りました。



『晩秋の風物詩』 岩国市阿品 原田洋子 (萩市)

見事に育った大きな大根。秋の日に温められ、寒風に干されてお
いしい漬物になることでしょう。見渡すかぎりの大根干し。まるで
暖簾の様です。



『棚田を守る』 長門市油谷津黄 政村 茂 (下関市)

油谷町の棚田。今年は沢山のいさり火の船が出ると思いき、何回も
通って撮りました。日が暮れるまで棚田の風景を撮っていた。丁度
タイミング良く農夫の方が仕事を終え、田んぼに出て来て草を集
めて火をつけた。めったにない事、チャンスと思いきシャッターを何
枚か切った一枚です。



With
Promoted
Photography
Contest

一般の部
入選



『ハゼ掛け』 周南市 尾崎ヒサ子 (防府市)

田んぼがアートのようにしてした。



『楽しい田植』 山口市徳佐 秦 保博 (宇部市)

お田植まつりの一コマです。小学生が一生懸命、また楽しそうに
田植をする表情が可愛くて撮りました。



『ヨイショ!! 取れた』 下関市豊北町粟野川 梶間幹雄 (下関市)

粟野川のアオサ採りで一生懸命冷たい水中から採り上げた姿を
撮った。



『さあ〜いただきます』 山口市秋穂二島 町田充江 (防府市)

耕運機で田おこしをされています。土の中からでてくる虫などを喜
んで食べています。この時はやはりよく知っていて、鳥も逃げません。



●特集Ⅱ

土地改良法が 一部改正されました

担い手への農地の集積・集約化を加速することなどを目的に、平成29年5月、「土地改良法等の一部を改正する法律」が公布されました。主にどんなことが改正されたのか、ご紹介します。

どうして改正？

農業の成長産業化のためには、担い手への農地利用の集積・集約化が重要と考えられています。そこで政府は、平成35年度までに、担い手が利用する農地面積が全農地面積の8割となるように農地集積を進めようという目標を設定しています。今後、高齢化の進展に伴い、農地中間管理機構（農地バンク）への農地の貸し付けが増えていくことが見込まれます。しかし、基盤整備が十分に行われていない農地については、担い手が借り受けにくいおそれがあります。

一方で、農地中間管理機構へ農地を貸し付けた所有者は、基盤整備のための費用を負担する用意はありません。基盤整備が進まなければ、担い手への農地の集積・集約化が進まなくなる可能性があります。また、近年、ため池などの農業用排水施設の迅速な耐震化が求められる状況となっています。土地改良施設の突発的な事故も年々増加しています。

そうしたことから、農用地の利用集積の促進や、防災・減災対策の強化に役立つため、土地改良法等の一部を改正する法律が公布されることになったのです。

主にどんなことが改正されたの？

【農用地の利用の集積の促進に関して】

- 1 農地中間管理機構が借り入れている農地について

農業者からの申請によらず、都道府県が、

農業者の費用負担や同意を求めずに基盤整備事業を実施できる制度を創設。

【防災および減災対策の強化に関する措置】

- 2 ため池などの農業用排水施設の耐震化について

農業者からの申請によらず、国または地方公共団体が、原則として農業者の費用負担や同意を求めずに事業を実施できる制度を創設。

- 3 土地改良施設の突発事故の対応について

農業者からの申請によらず、国または地方公共団体が、災害復旧事業と同一の手段で事業を実施できるよう措置。

- 4 除塩事業を土地改良法上の災害復旧事業として位置づける。

【事業実施手続の合理化に関して措置】

- 5 国または都道府県が行う土地改良事業の申請人数要件（15人以上）を廃止。

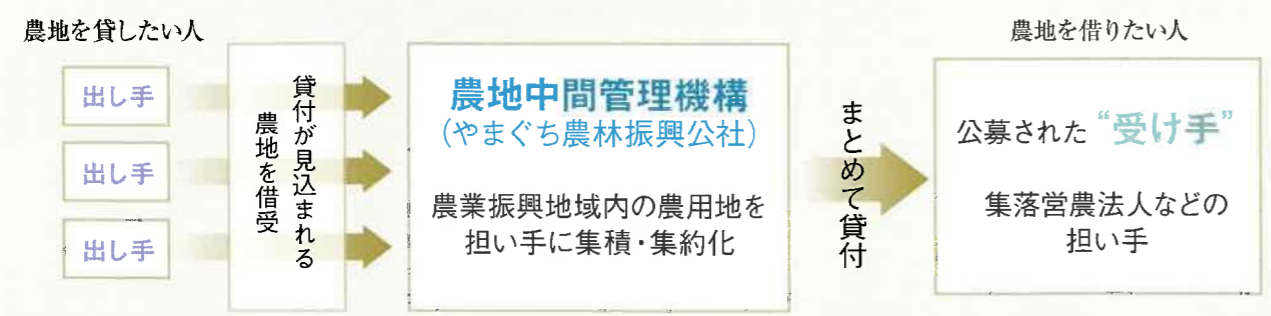
- 6 土地改良施設の更新事業のうち、技術革新などに起因する機能向上を伴うものに係る同意手続を簡素化。

- 7 土地に共有者がある場合など、代表者一人を選任し、共有地に係る一人の事業参加資格者などごみならず。

ココに注目！

農地中間管理機構（農地バンク）って、どんなもの？

農地中間管理機構とは、平成26年度に全都道府県に設置された農地の中間的受け皿「農地バンク」です。山口県では、「公益財団法人やまぐち農林振興公社」が、農地中間管理機構（農地バンク）として県の指定を受け、担い手への農地集積・集約化を図るために活動しています。



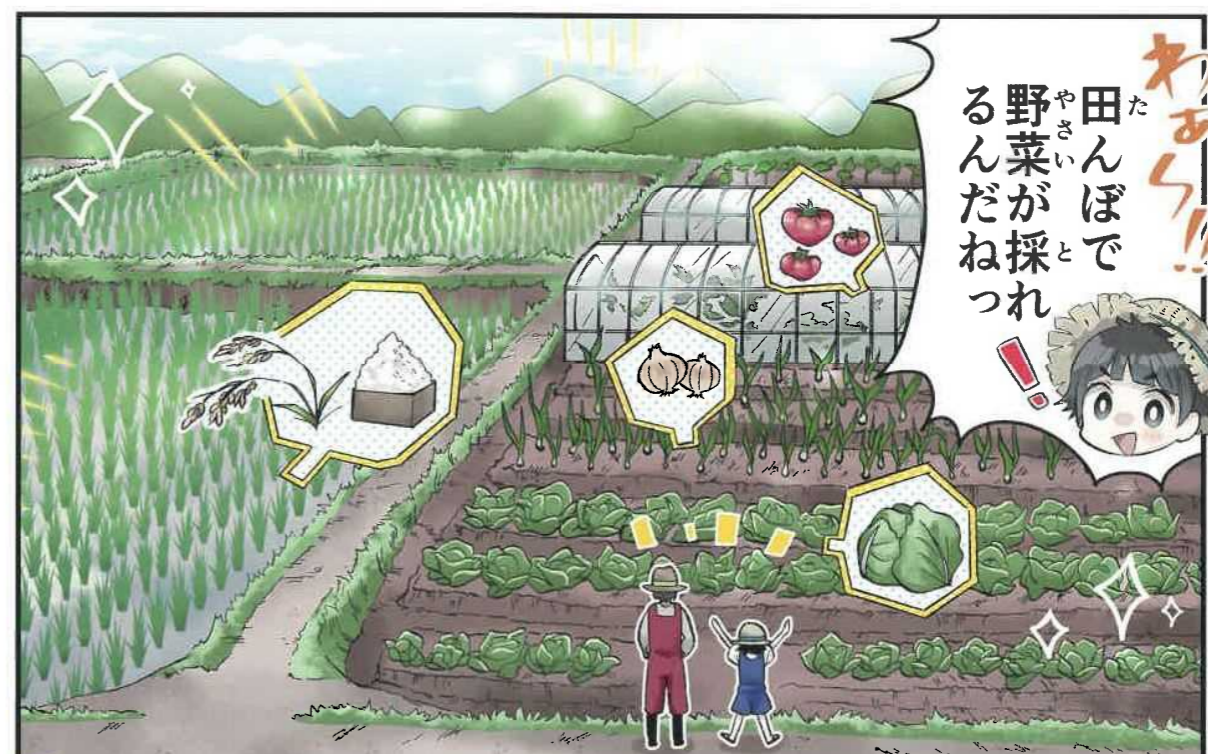
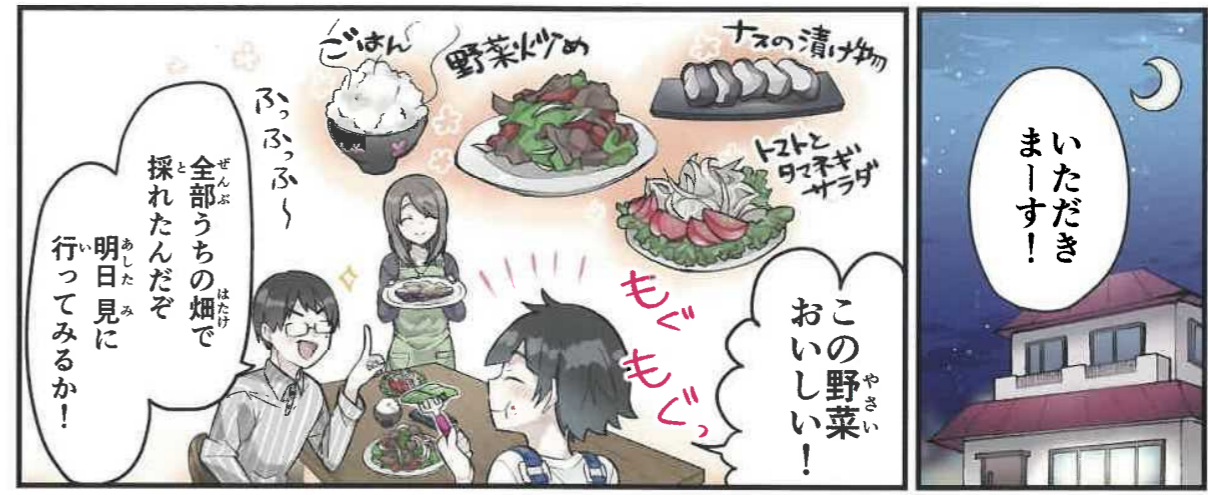
機構活用のメリットは？

1. 賃貸料の支払を効率化できます！
出し手との賃貸借契約は農地中間管理機構が行います。受け手は農地中間管理機構に地代を一括支払いするだけ。大幅に事務を軽減できます。

2. 地域の将来を見据えた農地利用を効率化できます！
分散錯雑^(注)を解消したい地域や、担い手が高齢化した地域では、最も適切な担い手に農地を受け継いでいくための話し合いが望まれます。農地中間管理機構を活用した地域では、地権者との契約はそのまま、農地中間管理機構から受け手への契約を変更することで、スムーズに利用権を移行できます。
※分散錯雑…耕地が分散し、他人の耕地と入り組んでいること。

【まんがで紹介する土地改良のお仕事】

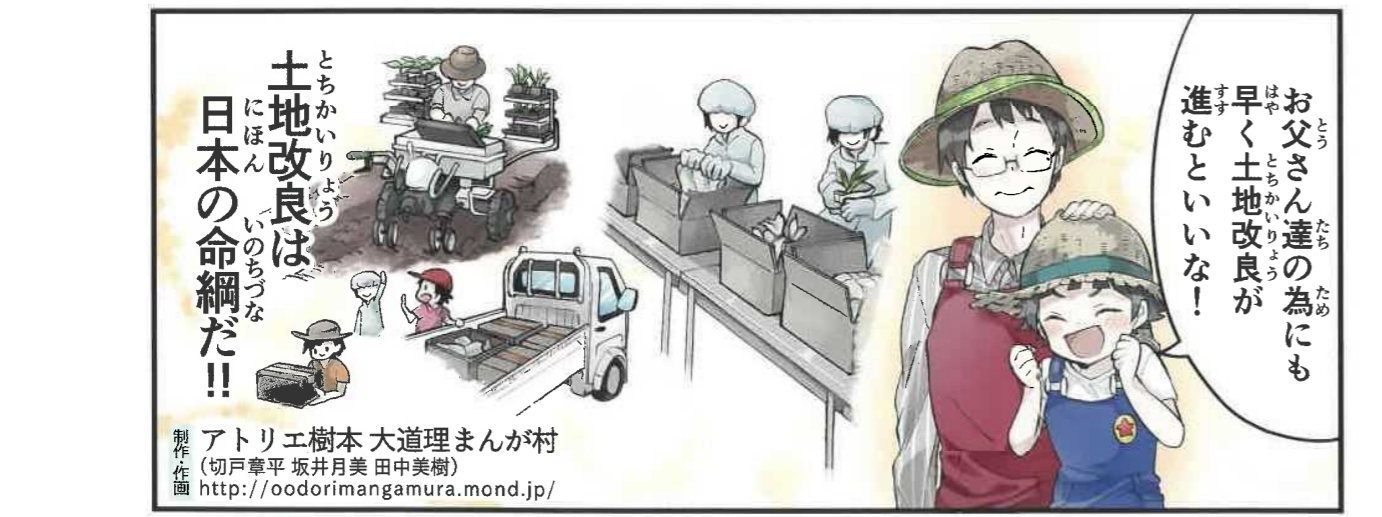
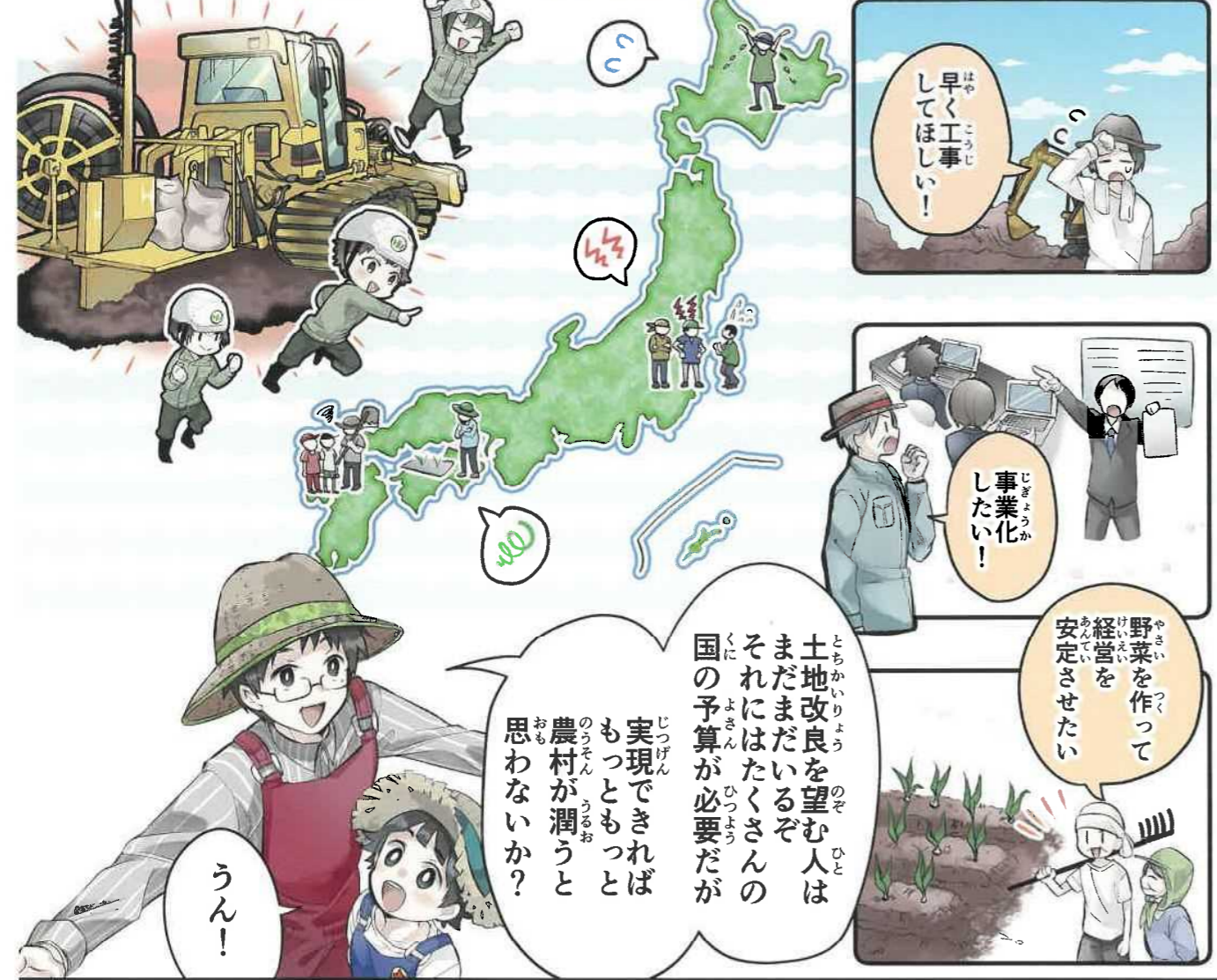
水士里ネット山口では、土地改良事業について広く一般に知っていただくため、子どもから大人まで親しみやすい「まんが」を使ってさまざまな事業内容をご紹介する取り組みを行っています。そのまんがを描くのは、山口県周南市の大道理地区に拠点を置くまんがアトリエさん。今回はそのまんがを一つ誌面でご紹介いたします。



周南市大道理地区について

周南市の山あいにある農村地域で、毎年地区の皆さんによって田のあぜ道に作られる美しい桜の名所として知られています。のんた16号の表紙も飾りました。

日本中で高まる
土地改良への期待!



アトリエ樹本 大道理まんが村
(切戸章平 坂井月美 田中美樹)
<http://oodorimangamura.mond.jp/>

アトリエ樹本
大道理まんが村

漫画家の樹本ふみき氏が2016年4月に山口県周南市大道理地区に移住。同地区にある空き家で漫画家志望の二十歳代の若者七人と共同生活を送りながらその成長を見守っている。共同生活を送る七人はいずれも周南市のYICキャリアデザイン卒の卒業生で樹本氏は同校講師。



農業用水の多面的役割

日本で使う年間の水使用量（約835億m³）のうち、農業用水は約3分の2を占めています。農業用水の大きな特徴は、自然界の水循環システムと融合した形でムダなく利用されていること。上流で取水された農業用水は使用された後、その大部分が河川や地下水に還元され、下流で再び農業用水や都市水などに利用されています。また、水田や水路を通るうちにろ過されたり酸素を取り込んだりして水質も浄化されていきます。

1 水田かんがい用水

2 畑地かんがい用水

3 畜産用水

4 生態系の保全

5 消流雪用水

6 景観の形成

7 親水空間の形成

8 防火用水

発行

食料・環境・ふるさとを考える

山口県地球人会議 事務局

〒753-0079 山口県山口市米米2丁目13番35号 水土里ネット山口 山口県土地改良事業団体連合会内
TEL:083-933-0033 FAX:083-933-0048 URL:<http://www.yamadoren.or.jp/>